

◆NEW

人間は若いときほど本を読むというのが、かつての傾向だった。しかし、近年は、若いときも年をとっても読まない傾向にあるようだ。読むのは、本が好きな人に限られ、読む人は何冊も、読まない人はまったく読まないと2極化していると思われる。



読売新聞記事（10月21日）によると、読売新聞社が、この1～2日に実施した読書に関する全国世論調査（面接方式）で、

この1カ月間に本を1冊も読まなかった人は50%（昨年52%）で、2009年調査から3年連続で50%台となった。本を読まなかった人は、20歳代では1980年の調査開始から最多の50%（同46%）に増え、「本離れ」は深刻化している。

そこで注目は、電子書籍だが、電子書籍を利用したことがある人は、なんとたったの7%（同9%）。利用したことはない人は91%（同90%）だった。ただ、「利用したことがあるし、今後も利用したい」4%（同6%）と、「利用したことはないが、利用してみたい」23%（同25%）を合計すると、電子書籍の利用を望む人は27%（同31%）になっている。これは、20歳代だと、52%（同54%）と半数を超える。

しかし、紙だろうと電子だろうと、読まない人は読まない。そういうことだろう。